農業の新しい技術

No. 399（平成10年6月）
分類コード　02－09
熊　本　県　農　政　部

カンキツ「不知火」・「太田ポンカン」における結果量と根の関係

農業研究センター　果樹研究所　常緑果樹部
担当者：北園　邦弥

研究のねらい

「不知火」と「太田ポンカン」は類縁関係にあり、既存の枝変り系極早生温州と同様、樹勢の維持・強化に重きをおいた栽培管理が要求される。近年栽培面積が急増した「不知火」においては、すでに樹勢の衰弱が大きな問題となっている。

そこで、樹体生理の面から樹勢衰弱の助長要因を明らかにし、樹勢強化策を検討した。

研究の成果

1　「不知火」では、結果量が多いと樹体生育は抑制される。特に細根量が減少する。
2　細根の活性も、結果量が多いと低下する。
3　「太田ポンカン」でも、「不知火」同様、着果過多により樹体生育は劣る。
4　着果負担が樹勢低下に及ぼす影響は明らかで、結果過多では樹の衰弱が助長される。

普及上の留意点

樹勢維持のためには、7月中旬～8月中旬の早い時期に摘果して着果負担を軽減する必要がある。

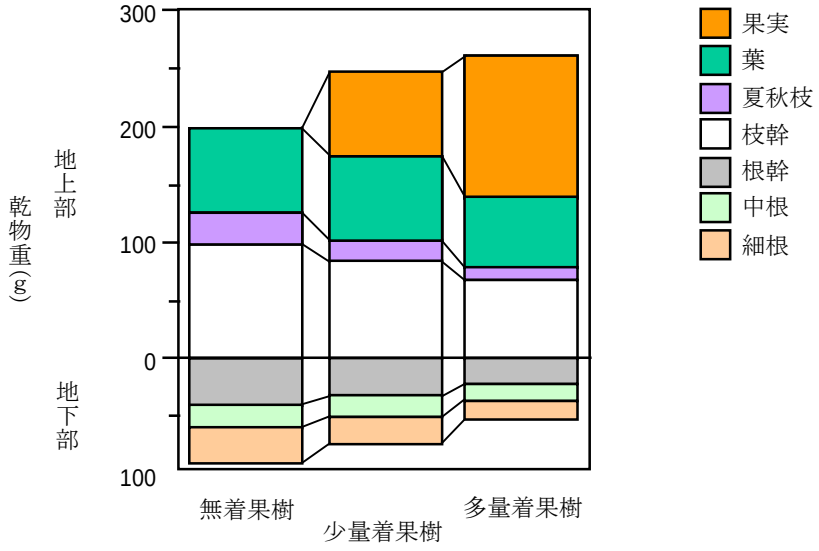

図１　「不知火」若木における着果量と樹体生育

注）少量着果樹：葉果比 242/1、多量着果樹：葉果比 88/1

表 1「不知火」若木における着果量と細根の酸素消費量

区分	葉果比	細根の乾物 1g 当り酸素消費量（ml）			
		1hr 後	2hr 後	3hr 後	5hr 後
無　結　果　樹		0.397	0.997	1.451	2.163
少　量　結　果　樹	242:1	0.486	1.062	1.478	2.097
多　量　結　果　樹	88:1	0.330	0.828	1.222	1.842

注）平成 9 年 3 月 12 日調査

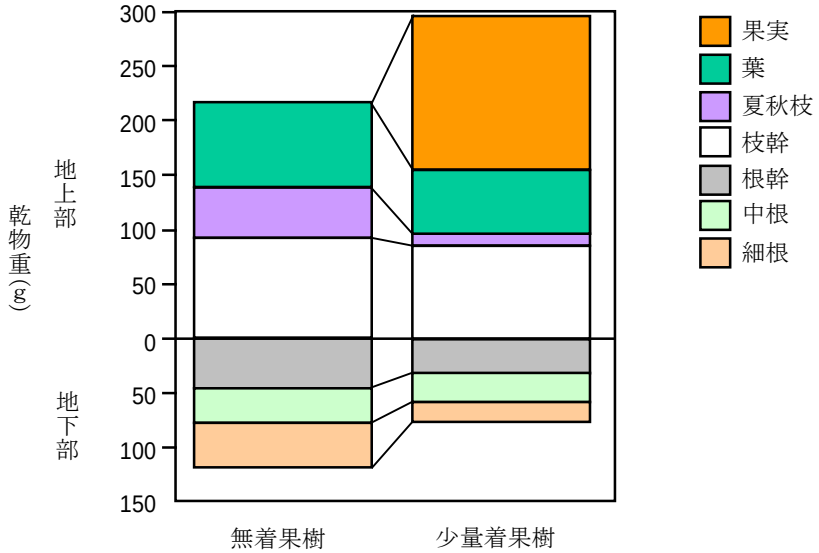

図 2　「太田ポンカン」若木における着果の有無と生育